



山行報告

陣馬山清掃登山(12月4日)

参加者 会員(障害者6名、健常者15名)

今日は、陣馬山の山を楽しみながら、ゴミを拾う清掃登山だ。総勢21人の参加者で、ゴミを拾えば一度できれいになるだろう。



トンクを持ってゴミを探しながら歩く

和田でバスを降り、ゴミ袋や軍手、トンクを準備してから車道を歩き始める。車道のゴミ拾いは、パスさせてもらい、登山道に入って行く。飴の包み紙など小さなゴミを拾いながら登っていく。落ち葉がかさこそと鳴って気持ちよいが、落ち葉の下にゴミが落ちているためにゴミが目立たないのかも知れない。

一ノ尾根に上がり、緩やかな尾根を歩いて山頂を目指す。途中、ガラスの破片などが見つかった。

見晴の良いところに出ると、山頂はすぐそこだった。山頂には、白い馬の像があった。風が

少しあり寒いので、西側の少し低いところにあるベンチでお昼にする。お昼を食べていると、白いものが舞ってきた。次第に密度を増し、完全に雪が降り始めた。



陣馬山の山頂にて

山頂で記念写真を撮影し、下山にかかる。降りだした雪は、次第に本降りとなり、Yちゃんは大きな口を開けて雪を食べようとしている。無邪気に遊ぶ姿を見ていると、本当に楽しい。

明王峠に着き、屋根のあるところで、休憩していると、Aさんが身軽な格好で、現れた。この付近はAさんのいつものジョギングコースだ。木々には、すでに雪が積もりはじめている。今回は、女性が多く、視覚障害者男性のサポートが厳しかったが、Aさんの登場でサポート陣の厚みが増し、本当に助かった。

大明神の付近には、みかんの皮やペーパーがたくさん落ちていたが、すべてを拾うことはできなかった。ここから、道は急な下降になり、高速道路を走る車の音が大きく聞こえるようになった。岩場のところも慎重に下り、与瀬神社を經由して、相模湖駅に到着した。さすがに下に下りてくると雪は雨に変わったが、苦にな

るほどの雨ではなかった。初めてのゴミ拾いでしたが、これからも山道を歩いていて、目に付いたゴミがあったら、拾うようにしたいですね。

和田(9:40)...一ノ尾根分岐(10:40,10:45)...陣馬山(11:30,12:15)...明王峠(13:10,13:20)...与瀬神社(15:15)...相模湖駅(15:35)

コースタイム

大楠山忘年山行(12月18日)

参加者 会員(障害者7名、健常者25名)
会員外(障害者1名、健常者5名)

この冬1番の冷え込みとなり心配したが、すばらしい天気恵まれて、登山と展望、そして忘年会を楽しみました。

新逗子駅から長井行きのバスに乗り、前田橋を目指す。車中から相模湾とその向こうに新雪を抱いた富士山が見えて、歓声の声が上がる。サーフィンをしている人たちも見えた。

前田橋の忘年会場に、不要な荷物を置かせていただき、山頂を目指す。しばらく舗装道路を登り、川を渡って登山道に入る。ここの岩は、何という種類だろうか、角が取れて丸みを帯び、意外と滑りやすい。

階段や岩の道、そして落ち葉を踏みしめながらゆっくりと登る。一登りすると平坦な尾根に出る。しかし、まだそこから何度かアップダウンを繰り返す。山行前から登るかどうかが迷っていたSさんが、途中で引き返すことにする。4班のみなさんの配慮で、YさんとTさんが、付き添って下りてくれることになる。

登山道脇のオオハナワラビや、光る海、木漏れ日、そして木の間越しに見える富士山などを

楽しみながら登ると、灯台のようなものが見えてきた。山頂はその脇だ。私たちと前後しながら、ビデオを撮ってくださっているMさんとKさんは、忙しく行ったり来たりしている。大変な作業をありがとうございます。



大楠山の登山道に行く

林道から最後の階段を登ると、広い山頂に到着する。展望台に上がると、富士山や大島、それに東京湾と横断道路、房総半島の富山や昨年登った三浦富士などがよく見え、すばらしい展望だった。ただ、さすがに風が強く冷たかったので、早々に広場に下りて昼食にする。軽い昼食のつもりが、意外とみなさんしっかり食べている。これから、忘年会なのに、腹に隙間があるのだろうか？



大楠山の山頂にて

山頂を後にし、来た道を引き返す。こんな時期にオオイヌノフグリも咲いていた。先月下見の時に咲いていたものが、まだ残っていたのだろうか？

下山途中で、忘年会の鍋奉行のみなさんが、一足先に下りて準備をしてくださるといふ。本体は、ヤマガラなどを見つけながらゆっくり下った。

忘年会は、バス停前にあるHAPPYさんの庭を貸していただいて、盛大に行った。今年、めでたく会員同士で結婚したTさんご夫妻に花束を贈呈し、障害者、健常者それぞれの最多

高見石(12月24日～25日)

参加者 会員(視覚障害者1名、健常者8名)

12月24日

今日は、すばらしい天気になったが、中央線の車窓から見える八ヶ岳は、すっぽりと雲に包まれて姿を見せていない。もしかしたら雪が舞うような天気かも知れない。茅野駅で合流したIさんの話では、小淵沢は今朝雪だったそうだ。

Iさんの車とバスに分乗して、渋ノ湯まで行き、ここから登山にかかる。黒百合ヒュッテ方面への分岐を右に分け、賽の河原を目指す。シラビソなどの木々は、たっぴりと雪を付けて重たそうだ。

何度か小さな橋を渡ると、岩の道になる。雪が多いため、例年より歩きやすいようだ。回復しはじめた天気は、賽の河原に着く頃には、すっかり良い天気になっていた。太陽の光を受けて、虹のような彩雲が見られた。賽の河原を過ぎ、樹林帯に入る。すぐに小屋に着くのはもったいないという話が出て、平坦なところで、コーヒータイトとする。見上げると、真っ青な空に樹氷が枝を伸ばして美しい。

小屋に着き、入る前に高見石を往復する。岩

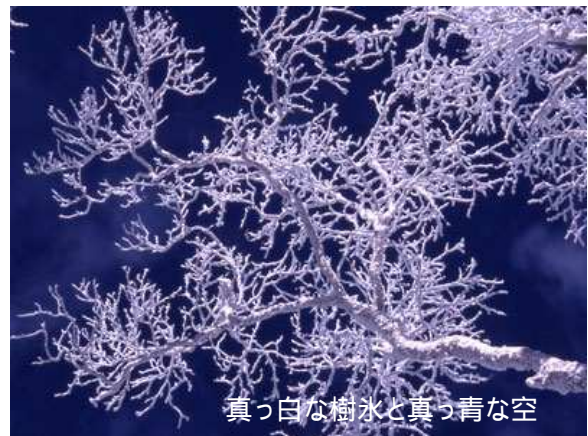
参加賞、そして新人賞を表彰し、今回は推薦があつて、蝶ヶ岳で初めてのサポートを頑張ったOさんに特別賞が贈られた。

差し入れのビールや酒を飲みながら、鍋やおでん、ドラム缶の上での焼きそばなどに舌鼓を打ち、寒さが体にしみいる前に解散した。

みなさん、今年1年、お疲れさまでした。また、来年もよろしくお願いします。

コースタイム

前田橋(10:00)...大楠山(11:40,12:25)...前田橋(13:50)



と岩の間に落ちると大けがをする心配があるため、ふんわりと雪の付いた岩の上を慎重に登る。Nさんの適切なサポートで視覚障害者のMさんも、順調に登ってきている。登り着くと、鬱蒼とした森の中に、目の形をした白駒池が真っ白な氷を張って迎えてくれた。遠くに見える浅間山や近くの北横岳、蓼科山、そして中央アルプスも見えている。

記念写真の後、小屋に引き返す。小屋の前の温度計は、氷点下13度を指している。小屋は、3連休だが、クリスマスで山に来る人は少ないのだろう、我々の他は、単独行の方が1人いただけだった。日の入りの頃、Iさんの木の間から見える太陽が美しいという声に誘われて、写真を撮りに出かける。高見石の上で、寒さを我慢して日の入りを見守る。小屋の煙突から煙を

立ち上がり、静かな日の入りだった。夜は、満天の星空も楽しめた。

12月25日



高見石小屋の前で

今朝は、快晴で明けた。高見石に登って日の出を待ったが、尾根がじゃまをして、なかなか日が昇らないため、モルゲンロートに染まった北横岳などを撮影して、小屋に戻る。

小屋の朝食を取り、予定より40分ほど遅れて小屋を後にする。

たっぷり雪を付けたシラビソの林の中を、シンデレラになったみたいだと女性陣は喜びながら、にぎやかに歩いている。背の低い木の上に、雪がマシュマロのように載って、ちょっとしたショックで落ちそうだ。樹氷の美しさといい、自然の作り出す芸術は、人工のものを遙かに越えている。

樹林が切れると、中山の展望台に飛び出す。北アルプスは穂高が何とか見える程度だったが、乗鞍岳、御岳、中央アルプスとよく見え、西天狗岳の両側に仙丈岳と北岳が見えていた。来た方向を見ると、蓼科山の右に頸城山群が見え、その右に四阿山や浅間山、その向こうに上越の山も見えていた。

記念写真を撮って展望台を後に少し歩くと、今度は東側の展望が開け、奥秩父の山々がよく

見える。日当たりが欲風も当たらないため、ここでコーヒー休憩にする。Hさんがコンロを出して、お湯を湧かしてくれた。



中山の東側斜面に

中山峠への道からは、硫黄岳と雪煙を巻き上げる天狗岳がよく見えた。峠から黒百合ヒュッテに下る。岩崎元郎さんのグループが私たちより先に、渋ノ湯方面に下っていった。我々は、渋ノ湯に最も近い道を通り過ぎ、パノラマコースに行く。場合によってはそのまま辰野館へと思ったが、車が渋ノ湯にあるので、トレースのない道を渋ノ湯に向けて下る。途中、わかりにくいところもあったが、Hさんの先導で、赤いテープを探しながら下っていく。ようやく渋ノ湯の手前の林道に到着した。Iさんの車に拾ってもらうことにして、何人かはそのまま歩いて辰野館に向かった。

コースタイム

12/24 渋ノ湯(11:45)...高見石小屋(14:40)...高見石往復

12/25 高見石小屋(7:40)...中山(9:15,10:10)...黒百合ヒュッテ(10:45,11:00)...パノラマコース唐沢鉱泉への分岐(12:35)...渋ノ湯(13:20)

那須岳(1月8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

日本海側に豪雪をもたらしている寒気の影響で、寒さと強風が予想されたが、太平洋側気候との境目に位置する那須岳は、事前の予想が難しいため、予定どおり決行することにする。

すばらしい快晴の中、宇都宮を過ぎると、日光の男体山などが見えてきて、期待がもたれた。しかし、黒磯に着くと、山の方は雲に覆われていて、やはり悪天候だった。

それでも、大丸温泉に着くと、時折太陽も顔を出し、昨年1月の状態よりは、かなり良さそうだった。しかし、積雪はかなり多く、しばらく車道を膝下までのラッセルをしながら進む。しばらく行くと、大丸温泉から階段を登ってきたトレースと合流し、ラッセルからは開放された。

道路にも1m近く積もっていただろうか。車道や樹林帯を登り、ロープウエーの駅を通り過ぎ、しばらく行くと峠の茶屋に到着する。ここから少し歩いて、登山道に入る手前にある東屋の下で昼食にする。東屋の屋根には、1mを超える積雪があったようだ。

ここから、雪に埋もれた橋を渡り、急なところを登っていくと、ナナカマドの木に無数の鳥が止まって実をついばんでいた。逆光ではっきり見えなかったが、アトリかなと思った。が、カワラヒワだった可能性も高く、識別はできなかった。



強風の中、峠の茶屋を目指す

次第に積雪が少なくなり、昨年登った時の最終到達点を通り過ぎた。この付近から風が強くなり、飛ばされる危険性もあるため、Yさんが持

ってきてくださったザイルで繋ぎあう。吹雪の中で、風は時折地吹雪を舞いあげて、襲ってくる。時折現れる岩場を通過していると、ようやく峠の茶屋が見えてきた。何度か雪渓をトラバースし、最後の少し長い雪渓を通過すると、峠の茶屋に到着した。時間的に遅いため、今回はここまでにする。小屋のドアが見えたため入れるのではないかと思って、確認してもらったが入れないということなので、写真だけ撮ってすぐに下山にかかった。後で会ったパーティーに聞いたら、小屋には入れたそうだ。



峠の茶屋にて

足下がふらついているKさんが心配になり、聞いてみるとサングラスが曇って前が見えないということなので、サングラスを外して歩いてもらう。目出帽を持っていなかったKさんの頬が凍り付いているようで凍傷が心配になり、私のマフラーを使ってもらう。

下りは順調に進んだが、雪が深くなってくると、足を取られてペースが落ちる。登りの時に休憩した東屋で再度休憩し、下山を急ぐ。ロープウエー駅の手前で、タクシー会社に電話を入れ、大丸温泉まで来てもらう手配をした。わずかに薄暗くなりかけた頃、全員大丸温泉に着いて、タクシーに乗り込んだ。

冬山がはじめての方もいましたが、今回は前回の高見石と違って、冬山の厳しさを体験できたのではないかと思います。

コースタイム

大丸温泉(10:25) ... 峠の茶屋上の東屋

(12:10,12:25)...峰の茶屋(14:05,14:10)...大丸温泉(16:20)

雷電山(1月15日)

参加者 会員(障害者5名、健常者10名)

昨日の大雨が嘘のように、今日はスッキリと晴れ渡った。

軍畑駅を後にして、車道を歩き始める。途中で高水三山に向かう道を左に分け、直進する。登山道に入る榎峠に着くが休憩する場所がないので、少し上に上がって休憩とする。

ここから、岩混じりの意外な急登が始まる。階段ができているが、急傾斜のためかロープが張ってある。そこを一がんばりすると、ほどなく雷電山の山頂に到着した。まだお昼には早かったが、ここで45分間の休憩を取り、昼食にする。



雷電山の山頂にて

湯ノ丸山(1月21日～22日)

参加者 会員(障害者6名、健常者10名)

1月21日

土曜の朝、家を出る時は、雪がしんしんと降

何人かの登山者が山頂を経由して通り過ぎていった。雷電山からしばらく急な下りが続いたが、その後は何度かアップダウンを繰り返す。名郷峠で二俣尾に降りる道を右に分け、今回は予定よりも少し先まで足をのぼすことにする。

その後も何度かアップダウンを繰り返し、展望の良い場所に出た。奥多摩の御岳山や大岳山がよく見える。また、関東平野を挟んで、遠く筑波山も見えていた。こちらで三芳町ハイキングクラブの方3人とお会いし、お互いの会の紹介をしよう。また、どこかでお会いできることを願って、先に進む。

三芳山を過ぎて、15分ほど下ったところから石神前駅に降りる道に入る。少し急な下りから、途中にあった岩場を慎重に下る。さらに沢筋を下っていくと林道に出た。そこからわずかで石神前駅に到着した。

これまでの寒さが嘘のようなぼかぼか陽気の中で、今日のはのびりと低山を楽しむことができました。

コースタイム

軍畑駅(10:00)...榎峠(10:35,10:40)...雷電山(11:15,12:00)...名郷峠(12:50)...三芳山(13:50)...石神前駅(15:00)

っていてみなさん無事に集まれるだろうかと心配だったが、寝坊した方を除いて、全員無事に集合した。高速バスで雪の中を走っていく。群馬県方面に来ると雪は止んでいた。碓氷峠付近からは、青空も一部見え始めた。

小諸駅に、20分遅れで到着すると、寝坊した方がタクシーに乗っていて、みんなびっくり。

新幹線は速いですね。小諸からジャンボタクシー2台に分譲して、地蔵峠に向かう。途中まで全く雪はなし。峠の近くでようやく雪が出てきた。湯ノ丸ロッジに着き、昼食をいただいて、スキー組とスノーシュー組に分かれて楽しむ。スノーシュー組は、足慣らしのために、リフトで上まで上がり、そこから樹林帯やリフトの下を歩いて下る。途中で、スキー組と会い、にぎやかな声がスキー場にこだました。

ロッジに戻って、夜の部の始まり。歌あり踊りありの楽しい一時を過ごした。

1月22日

昨夜は、雪も舞ったようだが、朝食の頃には雪面に日が当たり、青空が広がっていた。今まで何度か来た湯ノ丸山だが、いつも天気が悪く、山頂からは何も見えなかった。今回ばかりは、360度の展望に期待が高まる。



湯ノ丸山を見上げながら夏の湿原に行く

レンタルのスノーシューを履き、湿原を経由してつつじ平の鐘のところに上がるルートを取る。ヒガラがさえずり、大きなドラミングの音も聞こえた。積雪は、昨年より1mは少ないようだ。

湿原からは、湯ノ丸山が白く輝いて見える。雪深いところも、スノーシューのおかげで全く潜らない。次第に傾斜を増す頃から前後の間隔が開いてきたが、つつじ平に全員到着。周囲は、樹氷が真っ青な空に映えて限りなく美しい。「来て良かった」という喜びの声が次々に上がる。

つつじ平からは、山頂を目指すグループと少し上がって帰るグループに分かれて登り出す。少し上がるグループは、富士山が見えたところで引き返した。



午後には消えたはかない樹氷が美しい

真っ青な空、真っ白な樹氷、四阿山から草津白根の山々、さらに上州や上越の山々までよく見える。振り返ると籠ノ登山がよく見え、さらに八ヶ岳と富士山、そして美ヶ原もよく見えている。急な登りが一段落すると、山頂はすぐそこだ。山頂は風が強く、先に着いたNさんとHさんは、岩陰に隠れてお茶を飲んでいたのである。

山頂からは、360度の大展望。北アルプスは雲がかかり始めていたが、穂高連峰がわずかに分かった。乗鞍岳や中央アルプスもよく見えた。少し遅れて到着した人たちと、みんなで写真を撮って、寒くて長くはられないため、早々に下山にかかる。



湯ノ丸山の山頂にて

スノーシューが不慣れなため、下りが苦手な人もいるため、歩き方を教えながら、慎重に下る。山頂直下のクラストした雪面を過ぎると、あとは危険は無く、どこでも自由に下れる。所々、

シリセードを交えながら、下っていく。先に下った人たちは、つつじ平で、テルモスのお湯でココアやコーヒー、もずくスープなどを作って待っていてくれた。

予定時間をオーバーしているため、湿原に着いた頃にタクシー会社とロッジに電話をする。午後の陽射しが、雪面に降り注ぎ、木々の陰とのコントラストが美しい。木々の周囲は、あたたかいため、雪が溶けて丸く沈んでいる。

そんな風景を楽しみながら、全員ロッジに到着した。遅れた昼食をいただき、小諸駅の近く

のホテルでお風呂に入って汗を流し、高速バスで東京に向かった。山に登っている間、あんなにすばらしい天気だったのに、すでに雪が舞い始めていた。

コースタイム

1/22 湯ノ丸ロッジ(9:15) ... つつじ平(10:15, 10:30) ... 湯ノ丸山(11:45, 12:00) ... つつじ平(12:10, 12:55) ... 湯ノ丸ロッジ(13:40)

蓼科山(2月4日～5日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

2月4日

今日は、午後新宿を発って小淵沢のIさんの山荘に泊めていただく。猛烈な寒気が押し寄せてきているので、とにかく寒い。いつもよりも衣類を多めに着込んで、移動した。

Iさんの山荘では、奥様の美味しい手料理をいただき、いつしか良い気持ちになって寝込んでしまった。

2月5日

今朝は、山荘の外で-8。さすがに寒い。しかし、天気は良さそうだ。リフトが動く時間を考えて、スキー場でHさんと待ち合わせしているため、朝食をいただいて6時30分頃に、Iさんに車に乗せていただき、山荘を後にする。

車窓からは、甲斐駒や八ヶ岳、富士山が見えたが、八ヶ岳は雲に覆われていて、山は吹雪いているかも知れないと思った。しかし、蓼科山が近づくにつれて、雲が切れ、山がよく見えるようになってきた。

白樺高原国際スキー場でこれから千葉に帰

らなければならないIさんとお別れし、総合観光センターで、車できたHさんと合流する。

ここから、ゴンドラに乗って、標高1830mのゴンドラ終点から歩き始める。トレースがスキーのものしかなく、所々深く潜るため、歩き始めてすぐ、ワカンを付ける。ワカンのある人が前を歩き、ない人はしっかり踏まれた後を歩いてもらう。ワカンを付けずに登っていくパーティーもいた。



平坦なところから何度か圧雪された車道を横切る。蓼科山が高く聳えていた。木々に着いた氷が、朝日にきらきら輝きとにかく美しい。

しばらく歩くと、七合目に着いた。ここからが、本格的な登山道だ。しばらく平坦な斜面を緩やかに登っていくが、今日はAさんの調子が悪いようだ。HさんとTさんに付き添ってゆっ

くり行ってもらい、他のメンバーは少しペースをあげて山頂を目指す。

天狗の路地と呼ばれるガレ場の脇に出ると、展望が開けて、美ヶ原や車山がよく見えた。上空を通り過ぎる雲は、彩雲となって虹のように美しく見える。木々の付着した雪は、逆光の光を受けて美しい。ここにテントは一張り残されていたが、すばらしいテント場だったのではないだろうか。

ここから、次第に傾斜が増してくる。雪の結晶をカメラに収めたりしながら、頑張っ



蓼科山の山頂にて

ていく。傾斜が落ちてくると、まもなく蓼科山荘が建つ將軍平に到着した。蓼科山の最後の登りがよく見える。登ってきた方に聞いたら、アイゼンもいら

ないそうだ。ここで昼食を取り、空身で山頂を目指す。少し行ったところで、ANさんが、歩きにくいと言うことで、引き返すことにした。残った4人で、樹林帯を過ぎ、最後の急登にさしかかる。さすがにワカンを履いているとキックステップができないので、外してデポする。太陽に向かって登る姿は、絵になると思った。

傾斜が落ちてくると、そこは山頂だった。山頂は、岩がかなりあったが、平で広がった。展望は、北横岳から権現岳まで、手に取るように見える。その左には、金峰山を盟主とする奥秩父の山並みが見え、右手には北岳や甲斐駒、仙丈岳などの南アルプスが見える。広い山頂の向こうには、中央アルプスと、北アルプスが見えている。時折、穂高や槍ヶ岳が雲の間から顔を

のぞかせた。いつまでもいたい



のぞかせる。いつまでもいたい

が、時間も押し迫っている

コースタイム

2/5 白樺高原国際スキー場(8:55) ... 七合目(9:35) ... 將軍平(蓼科荘)(11:45, 12:20) ... 蓼科山(13:00, 13:15) ... 將軍平(13:30, 13:45) ... 七合目(14:30) ... スキー場(14:45)

シダンゴ山(2月18日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

この季節の土曜日のため、それほど登山者は多くないと思ったが、バスは立つ人が数人いるくらいほぼ満員だった。バスの案内が聞こえず、人が立っているため前も見えないので、席を立てて田代向を乗り過ごさないよう注意して、無事にバスを降りた。



それほど寒くなく、ほどよい気温の中で、車道を歩く。セグロセキレイが電線に止まって、チンチンと鳴いていた。

コンクリートの道をしばらく登り、宮地山の入口で考えたが、山道を歩いた方が楽しいだろうということになり、宮地山に向けて登る。この道は歩きやすく、ほどなく山頂に到着した。

ここで、Yさんが地図の読み方を講義してくださる。ここから少し下って、次のピークを越え、宮地山の山腹を巻く林道に出たところで、昼食にする。キンカンやイチゴ、ケーキなどが振る舞われ、食後のデザートに舌鼓を打つ。ここから緩やかな登りが続く。ヤマガラやコガラの声を聞きながら登っていくと、稜線に飛び出

陣見山は、雨のため中止しました。

した。ここは、秦野峠や高松山方面への分岐に当たる。ここから、一登りでシダンゴ山の山頂だった。



山頂は、アセビがたくさん植えられていた。まだ背が低く、展望は抜群だった。大山から三ノ塔、塔ノ岳、鍋割山に至る表尾根がよく見える。鍋割峠の向こうには、蛭ヶ岳が見えるはずだが、雲に隠れて見えなかった。しかし、雨山や檜岳などの稜線が見え、さらに高松山やその向こうに箱根の山々が見えた。ここでも、Yさんに地図の見方を伝授してもらう。

シダンゴ山の由来を読んだり、展望を楽しんだりして、下山にかかった。下りは、木でできた階段が続く。トラバースに入ったところにある広場で休憩し、そのまま登山道をトラバースしていく。お茶畑が現れ、日だまりの風景が広がると、ほどなく中津川に出会い、バス停に到着した。

コースタイム

田代向(10:10)...宮地山(11:15,11:25)...林道合流点(12:05,12:35)...シダンゴ山(13:15,13:40)...寄(14:55)

その他事業報告

臨時総会(1月14日)

出席者 社員(正会員)32名(うち書面委任者18名)

社員(正会員)総数(39名)の1/3以上の出席があり、総会が成立

1. 第1号議案 来年度活動計画の件

異議なく承認されました。(2006年度活動計画参照)

NPO活動発表会(1月29日)

参加者 会員(健常者12名)

千葉県中央地域(千葉市、八千代市、習志野市)のNPO活動発表会に、他団体から推薦をいただき、参加させていただきました。

山仲間アルプの活動趣旨や、目標としていることなどを、実際の写真なども交えながら説明

させていただきました。また、今回推薦いただいた「広報力」と「人材育成力」について、まだまだできていないとは言えませんが、実際の取り組みや今後の課題などを説明させていただきました。

他のNPOの活動発表を聞いたり、交流会で話をお聞きしたりすることができて、とても有意義だったと思います。

写真は、パワーポイントを用いて、活動している写真の説明をしているところです。

NPO活動発表会千葉県大会(2月25日)

参加者 会員(健常者1名)

各地域から選ばれた6団体のNPOが、発表を行い、その後、パネルディスカッションや交流会が開催された。

当会では、パンフレットや山行中の写真を掲載させていただきました。

また、交流会などで、多くのNPOの方たちと交流が図れ、NPO同士の連携を深めたいという話しを行うことができた。

個人山行報告

上高地(2月20日~22日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

会員外(健常者1名)

2月21日

Iさんの山荘から中央高速を飛ばしていく

と、周囲が霧や低い雲に包まれていた。雨は降っていないので、この様子なら、上高地に着く頃には晴れているのではないかと期待が膨らむ。

新島々から沢渡に向けて登っていくと、次第に雲の切れているところも見えてきた。沢渡でタクシーに乗り換え中ノ湯に向かう。沢渡の営

業所にはタクシーが1台しかないため、ピストンしてもらおう。

釜トンネルは、古いトンネルは閉鎖され、新しいトンネルの中を歩く。乾いていて快適だ。アイゼンなどはもちろん必要ない。トンネルは、かなりの上り坂で、疲れが出た頃、出口に着いた。



大正池の畔にて

ここからは、雪も締まっただけで、スノーシューは必要なかった。ただ、滑りやすいため、雪道に自身のない人はアイゼンやスノーシューを付けて歩く。

うっすらと青空が見え始め、焼岳がくっきりと見えている。雪に埋もれた車道を、時折デブリ(雪崩の跡)の上を歩きながら、のんびりと歩いていく。気温が高いため、右手の斜面からの雪崩れに注意しながら歩く。

最初のカーブを曲がると、西穂高岳が見えてきた。さらに次のカーブを回り込むと、手前の大正池の向こうに、真っ白に輝く穂高連峰が見えてきた。喜びの歓声が上がった。大正池の畔に降りて、写真の撮影タイムとする。湖畔に穂高連峰が姿を映し、素晴らしい風景だ。

大正池ホテルの脇から遊歩道の道に入る。ここからも、焼岳や穂高連峰がよく見える。池には、オナガガモやマガモが時折大きな声を上げながら泳いでいた。周囲には、ゴジュウカラのフィフィフィという囀りやヒガラのせわしないさえずりも聞こえる。

樹林の切れたところから、真っ青になった空の下に、穂高連峰がくっきりと見えた。犬を連

れてきた人たちもいる。

遊歩道の踏み跡をたどったが、途中で足跡がなくなり、締まった雪の上を歩いていくと、大正池に通じる林道に出た。この林道は、大正池の西側を通ってくる作業道のような。大正池ホテルからは、きれいに除雪された林道を歩いていく。除雪は河童橋のすぐ手前までされていた。



河童橋にて

河童橋で記念写真を撮り、畔で休憩する。穂高連峰がやはり美しい。梓川の畔には、ケショウヤナギが枝を赤くして佇んでいる。この季節でなければ見られない風景だ。カワガラスは、川に潜って餌を探していた。

時間が少しオーバーしているため、帰りは少し速度を速めて歩く。途中で、サルたちの群れに出会った。食べ物が少ないせいだろう、心持ち痩せているように見えた。まだ小さなサルも、大人たちの後を付いて歩いていた。

大正池ホテルで、タクシー会社に電話を入れ、迎えに来てもらうことにした。名残惜しい穂高連峰を振り返り、気温が上がってすっかり乾いた舗装道路を、中ノ湯に向かってせっせと歩いて帰った。

Iさんに、延命の湯経由で山荘まで車で送っていただき、ゆっくりと休むことができた。翌日は、山荘の近くを棒道まで散歩し、アカゲラやヒガラ、カワラヒワなどのバードウォッチングを楽しむと共に、権現岳、甲斐駒、北岳、富士山の展望も楽しんだ。小淵沢まで送っていただき、各駅停車でのんびりと帰京した。

冬の蔵王

都会は乾いたほこりを、暖かい風が舞い上げている。3月になると、山の雪質は軟性のざらめ状になり、そろそろ雪どけが始まる。

四季に色どられた奥羽の山脈にあって、冬の蔵王はいつも変わる事のない、厳しい景観を見せている。今年は各地に大雪が被害をもたらした様に、山村を孤立させ雪崩が民家や土石を押し流す、大自然の重苦しさではない。その眺めは大いなるものへ向かう、己の意志を奮い立たせる壮大さといえる。

熊野・刈田・五色岳のあたりが黒い雲でかくれると、小鳥の羽毛に似た大つぶの雪が落ちてくる。いくつも飽きずに消えながら、山肌はやがて冬の雪化粧をする。

12月も半ば過ぎると、ざんげ坂から地蔵山に続く一帯は深い雪で覆われ、高い樹木だけが頭を出している。朝が訪れて、日中の暖かい太陽が冰雪を水滴に変え、樹木の枝々の飾り付けをして、夜の厳しい寒さで光沢を加えていくと信じていたのだが、本当は日本海の蒸気霧が季節風に乗って飛来して、蔵王西斜面のおもりとど松の原生林に付着する。

次から次と、枝に夜の冷え込みで氷柱を作り、激しい風雪に当たって重なり合い、雪原に大きな雪の花々を咲かせるのである。お釜と呼んでいる火口湖から吹き付ける風は、硫黄の匂いがする。何日も吹き続けた強風が、様々な形の巨大な樹氷モンスターを作り上げるのは、年も明けた2月頃である。

やがて、薄暗く山の一日が終わる頃、パラダイスコースをスキーヤー達が、エコーを残して滑って行く。すっかり観光化して、ゴンドラやリフトで樹氷を見物し、スキーを楽しむ人達が多くなったが、霧氷から樹氷に成長する冬の素晴らしい造形美を、心行くまで堪能して欲しいと思う。

記：平成18年2月 I

各種連絡事項

理事会の議事録

2月16日に開催した議事録を添付しました。アドバイスやご協力をお願いします。
た。運営状況の把握と、より良い運営のために、

緊急時の連絡体制

別紙の通り、緊急時の連絡体制を確立しました。承いただいたみなさまに、心から感謝申し上げます。ただし、もしもの場合は、救助隊以外の
た。もしもの場合に、現場に駆けつけていただける救助隊も編成することができました。ご了承の方も、できる範囲でご協力をお願いいたします。

賛助会員の方へお願い

現在、山仲間アルプでは、会員制度を、総会の議決権があり、法人の目的に賛同して入会いただいた正会員（NPO法上は社員）と、総会の議決権がなく、法人の事業に賛同して賛助するために入会していただいた賛助会員（家族会員を含む）に分けています。

この制度は今後も引き続き維持する予定ですが、運営をより強固にしていくために、20

06年度の更新を機会に、賛助会員から正会員への変更をご検討いただけますようお願いいたします。

変更いただける方は、入会金の差額 5,000 円と年会費 10,000 円、それとスポーツ保険料 1,500 円をお振り込みいただくこととなります。

参加費について

これまで参加費は、リーダーの交通費や宿泊費の 15%～20%を一つの目安として決めていましたが、予想される参加人数などによって、オーバーする場合もありました。今後は、講習会や外部講師が参加する場合を除いて、リ

ーダーの最寄り駅からの交通費や宿泊費の 15%（切れの良い数値で四捨五入）とします。

これを機会に、ぜひ多くの方に登山やハイキングの行事に参加していただけますよう、よろしくをお願いいたします。

ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、2月末日現在約23400のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、

メールリストも運営していますので、パソコンをお持ちの方で、メールリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

今後の計画

視覚障がい者全国交流登山富山大会（東日本集会）

友好団体の富山三つ星山の会主催で、今年8月25日（金）から27日（日）にかけて、立山周辺で第10回視覚障がい者全国交流登山富山大会が開催されます。参加費は、1万円程度（宿泊懇親会費・昼食弁当・室堂までの送迎費などを含む）になります。

参加を希望される方は、3月25日までに事務局まで申し込みをお願いします。詳細な行程などは、同封しました書類をご参照ください。

山仲間アルプの事業ではありませんが、ぜひみなさまの参加をお願いします。

2006年度事業計画

臨時総会で承認された来年度の事業計画を別紙に掲載しています。都合が付きましたら、ぜひご参加ください。なお、6月17日にある

生活クラブ生協の30周年記念イベントに参加するため、帝釈山を6月24日（土）～25日（日）に変更し、雁ヶ腹摺山を6月18日（日）

に変更しましたので、ご了承よろしくお願ひし ます。

個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで 大です。もしもの時のために、必ず提出するよ
計画書を提出ください。計画書を提出していな うに心がけてください。
いと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

会 員 情 報

新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。(敬称略)

賛助会員

1名

友好団体情報

今回から、山仲間アルプと友好関係にあるNPOや市民活動グループを紹介するコーナーを設けました。興味を持った団体や応援したい団体がありましたら、事務局まで申し出ください。

六つ星山の会

山仲間アルプ設立のきっかけとなった創立25年という歴史を持つ、視覚障害者と晴眼者が共に登山を楽しむ山の会です。四季折々、月に2~3回の登山を実施しています。山仲間アルプとも、同じ山を愛する会として、様々な形で協力しあいたいと考えています。

所在地：東京都内

会員数：232名(2005年11月末現在)

年会費：3,600円

ホームページ：<http://www.mutsuboshi.net/>

JFAS(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)

日本で回収した古着をパキスタンに輸出し、スラム地域の学校アルカイルアカデミーの自立運営を支援しています。古着は、その2割を国内で販売し、団体の活動費に当てると共に、8割を低価格で輸出し、買い取った現地のアルカイルアカデミーの事業グループが販売して、その収益が学校の運営費になっています。

日本とパキスタンのそれぞれの団体が、互いに連携し経済的に自立できる仕組みを築き、継続的に安定した活動を展開しています。

古着の回収の際など、ぜひみなさまのご協力をお願いします。

会費：1口5,000円、支援メンバーは1口2,000円

ホームページ：<http://www.f3.dion.ne.jp/%7Ejfsa/>

編集後記

・理事長のつぶやき

今回の機関誌から、友好団体の紹介を開始しました。山仲間アルプ以外に、様々な形で社会貢献をしようとしている団体をみなさまに知っていただくと共に、お互いに協力しあったり、応援しあえるのではないかと考えています。

例えば、六つ星山の会とは非常時に協力しあうことができると考えていますし、J F S Aとは古着を送ったり、山の好きな方が山仲

間アルプの活動に参加してくださるかも知れません。お互いに会員になることもできると思いますし、それを通して理解が深まり、社会貢献に繋げることができるのではないかと考えています。これからも、いろんな団体の紹介をしていきたいと思っていますので、お勧めの団体などがありましたら、お知らせください。

・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

